

ラインの向こう側

～ 留置所体験記 ～

茶ーリトル(ペンネーム)

今月から不定期連載で「留置所体験記」をお届けします。

当時 20 歳であった彼は少年ではありません。しかし、事件を起こすこと、そしてその後の経験の中で思うことは、少年のそれと似ているのではないかと思ひ、今回の連載へととなりました。

僕は捕まった。僕は悪い事をした。服を盗んだんだ。

もう日も暮れだした頃、友達二人と僕の住む町にある大きなお店に向かった。

来年の事、来週の事、明日の事、なんか誰にだって分かるはずがない。当然この時分かりやしなかった、この後僕がマッポに捕まって……。

別にお金がなかった訳じゃない。買おうと思えば買えるような額だった。ただもうこの時はなんとなく、というより自分自身の好奇心に従ってそうした。

今に思えば完全に怪しまれていたと思う。つまり僕らはマ - クされていたんだよ、きっと。なんたって、それまでもその店で盗ってたからね。一度、友達が電子レンジを盗ってきた事があった。あん時あたまげたよ！ だって電子レンジだよ！ そんな時はもう二人して笑い転げてた。そんなこんなで、たぶん僕らには(自信?) みたいなもんがついてたんだと思う。「盗れるぞっ」という浅はかな自信。そして僕らは実行に移した。

僕らはお店の駐車場で捕まった。一部始終を見ていたお店のガ - ドさんみたいな人に。そこからはもうとんとん拍子、事務所に連れてかれて、警察に通報されて、警察署に連行。意外と淡々と話しちゃったけど、正直、僕はびびりっぱなしだった。パトカーに乗ったのだから生まれて初めての事だったし。友達の一人は経験があったからか、少し落ち着いている様にも見えたけど、僕はびびってた。でもその時は、「色々調書とられて、まあ今日中には帰れるだろう」なんて考えてたよ。都合よすぎだと思っただけ、その時は本当にそう思ってた。

どうやら考えが甘かったみたい。これまで僕の周りには、万引き(窃盗)で捕まった奴は何人かいた

けど、みんなその日の内に帰ってきてたんだ。ただみんな単独でやったケ - スね。でも、僕らは3人っていう複数の犯行だったから、悪質で計画性があるんじゃないかねえのかって思われたんだよ。まあそりゃ多少計画性あったかもしれないけど、まさか逮捕されるなんて……。

一緒に捕まった友達はどうなったんだろう？ 実は僕一人だけ二十歳で他二人はまだ未成年なんだ。僕の一つ下と四つ下。だから二人は少年課ってところに連れてかれて、僕だけ違う所だった。警察署に着いてからはずっと別行動だったから、二人が今どうなってんのか全く分からなかったんだよ。聞いたって教えちゃくれないんだよ。たぶん、これも捜査方法なんだろうな。とにかく僕は逮捕されて留置所に入る事になった。

「じゃあワッカ持ってきて」僕の担当の刑事さんがそう言うと、部下みたいな人が手錠を持ってきた。「ワッカって…… 業界用語か？」落ち着いていた訳じゃない。なんかもう堪忍したって感じだった。明け方、僕は留置場に入った。「手錠って重てえな……」

留置場生活が始まった。午前6時起床の留置場、明け方に入った僕には寝る時間なんて全くなかったからそのまま起きてた。同じ檻の中ではおじいちゃんが寝てた。「こんなおじいちゃんがなんで捕まったんだろう？」そんな事を考えてたら起床の時間になって、大声で「起床!!」って誰かが叫んだ。おじいちゃんも起きたので、僕はとりあえずご挨拶。すると、おじいちゃんもにっこり挨拶してくれた。そして、「留置場初心者」の僕に一日の大体の流れを教えてくれた。朝起きて、自分等の檻を掃除して、朝飯食って、その後は人によっては、東京地検(検

事さんのいる所へ行ったり、ずっと檻の中に居たり、取り調べしたり、まあそんな感じ。その後、僕らは自分等の事について、話せるだけ話した。

おじいちゃんの名前は「まっつあん」。そう呼んでくれて言われたからそう呼ぶ事にした。「まっつあんさん」ってね。前にも捕まった事あったらしいけど、今回は喧嘩して傷害で捕まったんだって。で、僕も僕で自分が捕まった経緯を話した。そしたら、まっつあんが「じゃあ君は10日ぐらいだな」って言った。それを聞いて僕は少し安心しちゃったんだよ。ってというのは、なんか始めて自分の状況が少しだけ分かったからなんだ。いや、その10日ってのがまだ確定じゃない事ぐらい分かってたよ。なんたって起訴猶予(まあ釈放って事)か、裁判か、なんて決めるのは検事さんだからね。ただね、逮捕経験のあるまっつあんにそう言われると、なんか本当にそんな気がしたんだよ。

話がかがらっと変わっちゃうんだけど、僕、実はバンドやってんだ。本当に音楽が大好きでさ。中3の時にブル-ハ-ツを初めて聞いて、なんかもう僕の身体の中にある棒みたいなやつが、グイッって曲げられた感じだったよ。それぐらい衝撃的だった。で、高校の時に始めてバンド組んだんだ。今、僕は本来は大学生なんだけど、行ってない。バイトしてバンドやってって、これが今の僕の生活。正直大学は辞めるつもり。周りが罵ろうが、バカにしようが関係ないさ。

話を戻すけど、実は、13日後には高円寺でライブがあったんだ。また都合よすぎだけど、「もし1

0日で出れたらライブができるかもしれないぞっ」って思ったんだ。それも安心した理由だったんだ、本当は。そんな時初めて思ったよ、「俺ってほんとに何やってんだよ。自分で自分の首締めてさ。こんな事でライブ出来なくなっちゃったらどうすんだよバカヤロウ」。それから、初めて真剣に母ちゃんの事を考えた。

僕実はね、その頃友達と二人暮らししてたんだ。一緒に捕まった友達とね。実家にはちょくちょく帰ってはいたけど、昔一緒に暮らしてた時みたいに頻繁に、というより毎日家族と顔を合わせる、なんて事は当然なかった。たまに会う程度。そんな中でも一番会ってたのが母ちゃんだ。ガキの頃からそうだったけど、何かと僕の心配しては手を焼いてくれてたのは、どっちかっていうと母ちゃんだった。あ、でもこれだけは言っとくよ。母ちゃんは過保護って訳じゃないと思うし、親父もまるっきり放任主義って訳じゃないからね。親父とはたまに飲みに行ってたし、妹とはけっこう仲良かったしね。

また話がそれちゃったね。戻そう。朝の掃除を終えて朝飯タ-イム！意外とおいしいんだよこれが！まあ朝飯つつても米とふりかけと味噌汁だけなんだけどね。味噌汁はあったかくてうまかった。そういえば、昔ポ-ル・マッカ-トニ-が日本で大麻所持で捕まった時も、「味噌ス-ブがおいしかった」って言っていたらしい。なるほどうまい。イエスタデ~イ、みそし~る、イエスタデ~イ。

つづく・・・